

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792900011		
法人名	医療法人久慈会		
事業所名	グループホーム下志宝台		
所在地	福島県東白川郡棚倉町大字関口字一本松164-3		
自己評価作成日	令和3年12月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和4年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の見渡せる高台位置し、春から秋にかけて職員、利用者様と共に花を植えたり、はたけを耕しやさいを育てています。ホーム内ではあまりカリキュラムにとらわれず落ち着いて、のんびり過ごせる時間を、提供する事に努めています。又季節感を損なわぬように、四季折々の行事を企画し、いつも笑顔で楽しんで頂けるよう努めています。利用者様1人1人への挨拶も大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

感染症予防をしながら高校生の職場体験を実施し利用者と交流をしてもらい、オンラインで小学生に職場紹介をするなど、事業所の現状や介護の仕事を知ってもらう取り組みを積極的に行っている。
利用者の様々な要望、家族からの意見に真剣に耳を傾け、利用者がその人らしく地域で生活するためどうすればよいかを考え、管理者・職員が連携して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議などにて理念を確認しながらケアに繋げるように話し合い努力している。	利用者を自分の父や母と思い、人生先輩として尊敬し、利用者の立場に立ち、利用者の持っている力を維持し可能な限り自立できるよう支援し、住み慣れた町で地域資源を生かし暮らしてほしいとの思いから理念を作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症で最低限交流しか出来ない。推進会議も文章で送ったりとしている。棚倉町ケアマネ会議は参加し情報を得ている。	町内会のクリーンアップ掃除への参加している。高校生に、グループホームと認知症等について学んでもらい、食事作りや、洗濯畳みを経験してもらっている。事業所の納涼会とクリスマス会に区長、民生委員、ボランティアの方等を招き交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	思うようなイベントも出来ず、小学生にはオンラインにて認知症の施設がどんな所か話したり、高校生は職業体験して頂き、できる範囲で貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症にて定期的な会議が出来ずスタッフ会議や申し送りには文書にて来たものに対し報告し話し合いしている。	入居人数、介護度、空き情報、行事報告、利用者状況やヒヤリハット、事故報告等を伝えている。認知症カフェの情報を頂き参加したり、家族や地域の方の意見や要望を多く聞きたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス感染症にて何かある時は訪問したり、電話にて相談し情報交換している。	町へ入居要望や、町より空室があれば入れたい人がいる等とお願いをされる等、情報交換をしている。町には、コロナ情報、入居希望情報、勉強会情報等を要望したい。身体拘束に関する研修、勉強会への参加情報も要望したいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯上夜間以外は行っていない。帰宅願望のある利用者様にはブザーなど増やしたり、その都度話し合いを持ち、声掛けなどの徹底に努めている。スタッフ間の会議で話し合い多く持つ。	身体拘束をしないことを基本にしている。言葉の高速について気付いたときは、その場で注意し、何が問題かを職員に問いかけ、会議などで確認し、拘束のないケアに取り組んでいる。独り歩きする方には、一緒に歩いたりし、寄り添いながら見守りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な会議を行い、話し合い意識している。職員間にてケア振り返りなどし、虐待が見逃されて無いか、話し合いする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウイルス感染症の為研修会に行けず行えていない。現在成年後見制度を利用している利用者も無く勉強する機会がない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に苦情、意見ポスト設置したり、来所された時に意見交換している(現在窓越しにて行っている)	面会に来たときに利用者の状況を細かに話し、意見や要望を聞くようにしている。栄養補助食品を飲ませてほしいと要望があり対応している。家族の方からは、元気でいてくれることが嬉しいとの声を掛けがあり、頂いた意見等は担当者と会議にて共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や施設内会議にて要望を伝え、反映されている。	時折面談を行ったり、会議等で意見を出しやすくする工夫をしている。故障や修繕の必要なことで連絡があり、すぐさま対応することで利用者に負担をかけることがなくなっている。職員から、研修等への参加要望があるときは、参加できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議や直接管理者状況報告などし必要であれば面談など行い努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、地域研修を受けるようにしている。(コロナウイルス感染症にて少なかったができる範囲で出席する)ケアに対し何かあった時はその都度話し合いしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症にて出席する機会が無く、電話などで聞いたり、確認したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の要望とらえコミュニケーションをとり信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご本人、ご家族様の要望確認の上、ミーティングにて職員間の意識を統一し、迷い無い関係作りを進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込時、今すぐ希望される方、冬期間のみであるのか、利用者様の状態、希望の確認し、施設紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事の支援としては洗濯たみ、食後の茶碗拭きなど、なるべく役割を持って頂く様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内の受診は施設側にて行うが病院など専門の治療を伴う場合は家族にお願いしている。施設側からの情報提供を持参して頂いています。何かあるごとにご家族様へ電話を入れ報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症にて面会制限や外出制限があり行えていないが、最低限の電話で状況確認や窓越し面会など行っている。	感染症予防に配慮し、家族、友達などの窓越し面会や電話で関係継続を図っている。面会に来てくれた方には、また来てくれるよう伝えている。感染症が終息した時点では、自宅への訪問や墓参りにも行っていただきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々利用者様の状況を見ながら、その都度席、や場所を考え関わり合いに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様からの情報、日常生活からご本人の思いを取り組み、スムーズに次の生活が出来るよう支援し、何かありましたら声掛けて下さいと声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	精神面、体調等考慮し、生活できるよう職員間で話し合いまた表情、言動観察しながら対応する。(居室で読書している)	本人との話や言動、行動をみながら、職員間で密に連携を図り思いや意向を把握するようにしている。思いや意向の困難な方には、会話したり、必要であれば家族へ電話し、会いに来てもらうなど、納得、安心してもらえるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に生活歴など伺い、それを踏まえホームでの生活を支援していく、環境作りをする。入所後は日頃の会話の中から、入所前の生活を察しアシメントし、話しあうことで職員間で共有志把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを大切に、ご本人の好きなことが出来る事、継続できるよう職員間で話しあい情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間が話し合い、担当が日常の状況をまとめケアマネが介護計画を作成している。	本人・家族の思いを汲みながら、会議等で話し合い介護計画を作成している。出来ることはしてもらい、できないことの支援を基本としている。身体状況等に変化のあったときには、全体会議などで話し合い、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランにもとづく記録、気づきや工夫を記入できるように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望、希望が叶うような支援が出来るよう検討に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症にてボランティア等の利用できず		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族へ連絡を入れ、かかりつけ医を受診し、受診後はご家族へ受診内容などについて報告を行い、ご家族様が利用者様の状態を常に把握できるよう対応している。他科への受診は必ずかかりつけ医へ報告している。	体調に変化のある時は、家族に連絡し受診してもらっている。受診は基本、家族に同行してもらっているが、必要があれば管理者が同行している。受診結果は、家族と連携し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員への観察、報告、指示、訪問看護師による週1回訪問にて、体調管理のなど相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療連携室に相談したり、連絡調整し、常に情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する書類を入所時と、急変時に頂く様にしている。	入居時に書類にて確認し、重度化時点で医師に話してもらい、本人・家族の意向を再度確認するようにしている。重度化や終末期に対応するため、事業所内の勉強会、外部の研修会に参加するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員を中心に他部所間での救命救急勉強会に参加を行っている。コロナ過にて減っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接法人施設の利用、職員間の利用者様含めて避難訓練を行っている。	地震想定、大雨時の通報訓練、駆けつけ訓練等を行っている。消防署の立ち合い訓練後、夜間一人勤務のため訓練を増やす事、家事への通報を行うことなどのアドバイスをもらっている。訓練に参加できるように、勤務の調整をしている。水、乾パンなどの備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し、口調、態度、雰囲気 に気を付け、目線合わせたり、ジェスチャーなどで 語りかけている。	職員には、自分がされて嫌なことは利用も同じな のでしないように話している。耳が遠い人には 耳元で目線合わせ確認をし、笑顔を忘れない事 を心がけている。利用者間のトラブルには、職員 が間に入り話を聞き、必要であれば少し距離を置 き対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	会話を多く持つことで表現出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過 ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、お手伝い、レク、行 事参加もご本人の意思確認しながら進めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	眉書きしたり、化粧水付けたりと、ご本人が出来 る事を見守りし、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	畑で作った野菜を収穫し、利用者様に見てもらい 何して食べるか相談したり、食事内容からの会 話を楽しみながら、かたづけも一緒に行っている。 誕生日には希望を聞きながら献立作成している。コ ロナ過にて時折自由メニューにし食べたいものを食 べて頂く。(ぼた餅が多い)	一人一人に合わせ食べやすい大きさに合わせたり、 美味しく食べてもらえよう盛り工夫して いる。その人のペースで食べられるよう、介助が 必要な人にはその人に合わせている。コロナ禍 になり行事も少なくなり、特別食を多くしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	D-3シートや利用者チェックシートを活用し行っ ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	ご本人の状態に合わせ声掛けしたり、介助を行 い支援している。夕の義歯には毎日ポリデント洗 浄消毒、仕上げ磨きも毎回行い、口臭の予防に努 め、口腔内の異常の発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状態を観察し、早めに声掛け開いて行く。利用者様にあった形で排泄を行えるよう支援している。状態の変化には職員間で話し合いその人に合ったもので使用し様子みる。	なるべくトイレで排泄してもらい、布パンツ使用を目標にしている。利用者一人一人に合わせたトイレ誘導をしている。職員の声掛けで、オムツからリハビリパンツ、パットになった方がいる。失敗しても、大丈夫ですと声掛けし対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートを活用し、水分を多く摂ったり、動ける人は散歩などし運動を心掛ける。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態を確認し入浴している。タイミングや声掛けを工夫し、その人のペースで安心してゆっくり入浴できるよう支援している。	嫌がるときには、息子さんの名前を出して入れてほしいと頼まれました等、声掛けに工夫している。入浴剤を使用し、匂いを楽しんでもらっている。脱衣所と浴室の温度差をなくし、ヒートショック対策をしている。入浴のできない方には、全身清拭をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を増やしたり、生活のリズムを整える様努め、個人の体力にも配慮し必要に応じて休息の時間も取り入れ夜間の睡眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は誤薬を防ぐため一包化しており、看護職員を中心に状態把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の特徴に合わせ、おてつだいをお願いしたり一緒に行く。余暇時間には歌を唄ったり、ことわざ、果物カードで遊んだり、新聞や広告提供し読んでも頂いたり、ボール遊びしたり、塗り絵など行い継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症にて行えず、家族様には窓越し面会としている。天気の良い時は窓越しにて日光浴し季節の話などする。	散歩をしたり日光浴を窓越しで行い、居室や共有空間の空気入れ替えは時間で行うようになっている。行事で出かけるときは、天気をみながら洋服を調整し、水分持参、健康チェックしてから出かけるようになっている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の持参はしていません、何かある時は家族にお願いしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>コロナ過にて電話のやり取りを多く増やしている。うまく話せない時は職員が間に入り対応する。毎年賀状を家人に出し利用者様にも一言かいて頂く。遠方の方より電話ある時は近況報告などし支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節を感じられる装飾やイベントなどの写真、花などで工夫している。洗濯室内干しなどし生活感を取り入れている。</p>	<p>テレビの前や自分の席で新聞を読んだり、居眠りをするなど思い思いに過ごしてもらっている。利用者の歩行の安全のために、見守りしたり一緒に動くなどしている。感染症予防で、面会制限、手洗い、うがいの徹底、職員の体調管理に注意している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>椅子やテーブルで過ごして頂けるようお茶やコーヒーなど提供し利用者同士でお話したり唄ったり工夫している。一人で過ごしたいと思う利用者様は自由にくつろいで頂き見守りし対応する。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にしながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。</p>	<p>馴染みの家族写真、お家で使っていたテレビや布団一式、洋服など持参して頂き、お家と近い環境で暮らして頂けるよう工夫している。</p>	<p>車椅子使用の人や、自宅での頭の位置などひとり一人その人に合わせてベッドの位置などを変えている。居室を間違えないよう、入り口に写真入りの名前を貼ったりしている。清掃や衣替えは、担当者が中心に行い、清潔に整理整頓している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>似たような戸が多い為各居室に写真付き名札を使用している。必要な場所へ手すりなどの取り付けを行い、トイレにはトイレと表示しすぐわかるよう工夫している。</p>		